

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No334

(新著の紹介)

先生たちのフロネーシス

—前著『先生たちのリフレクション』をどのように乗り越えたか—
千々布敏弥先生（国立教育政策研究所 研究企画開発部 特任研究官）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)

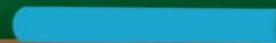


千々布敏弥

ちちぶ としや

国立教育政策研究所 研究企画開発部 特任研究官

九州大学大学院博士課程中退、文部省入省。その後、私立大学教員を経て、1998年から国立教育研究所（現・国立教育政策研究所）の研究官、総括研究官となり、2025年4月より特任研究官となる。



Number 5

① 千々布敏弥先生との対談 —「主体的・対話的で深い学び」が施策化された背景・舞台裏に迫る—

今回の企画 (Number5)

先生たちの
リフレクション



千々布先生の名著

『先生たちのリフレクション—主体的・対話的で深い学びに近づく、たった一つの習慣』
教育開発研究所 (2021年11月刊行)

から、大きく2点についてご説明いただき、溝上と対談をして理解を深めます。

- ① 「主体的・対話的で深い学び」が施策化された背景・舞台裏
- ② 佐藤学による授業研究批判
石井英真による佐藤学批判と教授学再興





千々布敏弥 (2025). 先生たちのフロネーシス—リフレクションを超えた授業改善の考え方— 教育開発研究所

- 第1章 フロネーシスとは
- 第2章 教材研究におけるエピステーメーとフロネーシス
- 第3章 教育観の省察
- 第4章 教師の問題解決思考
- 第5章 省察を促すコーチング
- 第6章 教師エージェンシーとは
- 第7章 学校のエージェンシーを促進するポジティブ・プレッシャー
- 第8章 教師のフロネーシスをどう促進していくか

それではご覧ください

堺市教員

一気に拝読しました。赤線とメモだらけです。

「千々布先生が教育関係者全員に送る最大のエール」というのが私の読後感です。書籍を出版するというのは、これだけの重厚さと深淵さがなければできないのかと心から圧倒されました。

正直な感想として「格が違う」と痛感しました。

この度の千々布先生の渾身の一作は今後教育関係者の「必読書」になります。

二項対立を超えるところに、私たちのそして子どもたちのウェルビーイングがあるのだと感じました。

まさか、アリストテレスの枠組みと教育の問題状況を結び付けられるとは恐れ入りました。そんな発想は何度生まれ変わっても私からは出てきません。

エピステーメーとは、授業づくりにおける定数であり、フロネーシスとは、授業づくりにおける変数なのではないかと推察します。

今回のご著書を拝読しながら、教師の授業力 = 教材理解力（授業づくりの定数部分）× 授業の構想力（授業づくりの変数部分）なのだと考えました。

エピステーメーの領域とフロネーシスの領域はそれぞれ掛け算の関係性なのだろうと思います。

藤沢市指導主事

『先生たちのフロネーシス』のご本、わたしも実は一気に読ませていただきました。CL研でお世話になっていますが、先生のお考えがわかりやすく示されていて、本当に学ばせていただくことが多いと改めて先生の「すごさ」を感じています。←私がちゃんと理解しているかは不安なところでもありますが、いろいろな視点を頂いていると思っています。

福岡県高校教諭

「先生たちのフロネーシス」拝読いたしました。読書会で何とか読んめたセンゲ、メンタルモデル、コルトハーヘン、イエナプラン、CL研のコアメンバーの先生方の事例. . . 穴あき状態の知識の穴が塞がって繋がっていく感覚です。数回、読み直して深めて参ります。今まで、自分が目指す教育の方向が正しいのか、不安で苦しかったのですが、少し楽になりました。そのまま進んで良いと背中を押していただきました。フロネーシスを促進し、生徒と教師のウェルビーイングを目指します。ミドルとして学校でできることを進めようと思います。

前著の主張：技術的リフレクションから批判的リフレクションへ

見える現象

技術的リフレクション

- ・見える現象に反応
- ・マニュアル主義

現象の背景にある要因

実践的リフレクション

- ・現象の背後にある要因を見通そうとしている
- ・実践の背後にある理念に自覚的でない

本人のメンタル・モデル

組織文化
= 構造

批判的リフレクション

- ・自己の内省（メンタルモデルの自覚化）
- ・授業の目的をイメージ
- ・教科の意義を理解
- ・関連する諸要因を分析し現実的な解を求める



前著への批判・疑問

- 批判的リフレクションにどう取り組めばいいのか
- 技術的リフレクションが有効な場面もあるのではないか

学校での現実

- 外部助言者に教えを請う教師たち
- 教師たちに教えている外部助言者
- 外部助言者の教えによって伸びている教師たち

エウダイモニア(人生の幸福)に向けた知の世界

動かすことのできない真理の世界

ヌース：道徳や正義など動かすことのできない価値

エピステーメー：論証可能で普遍的な知識

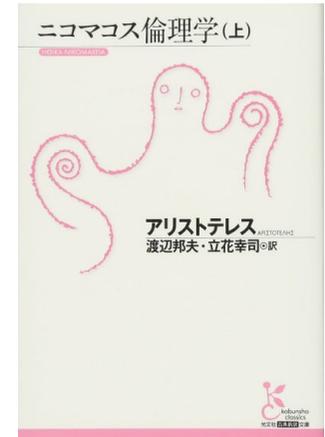
ソフィア：
ヌースとエピステーメー
を併せ持っている賢者

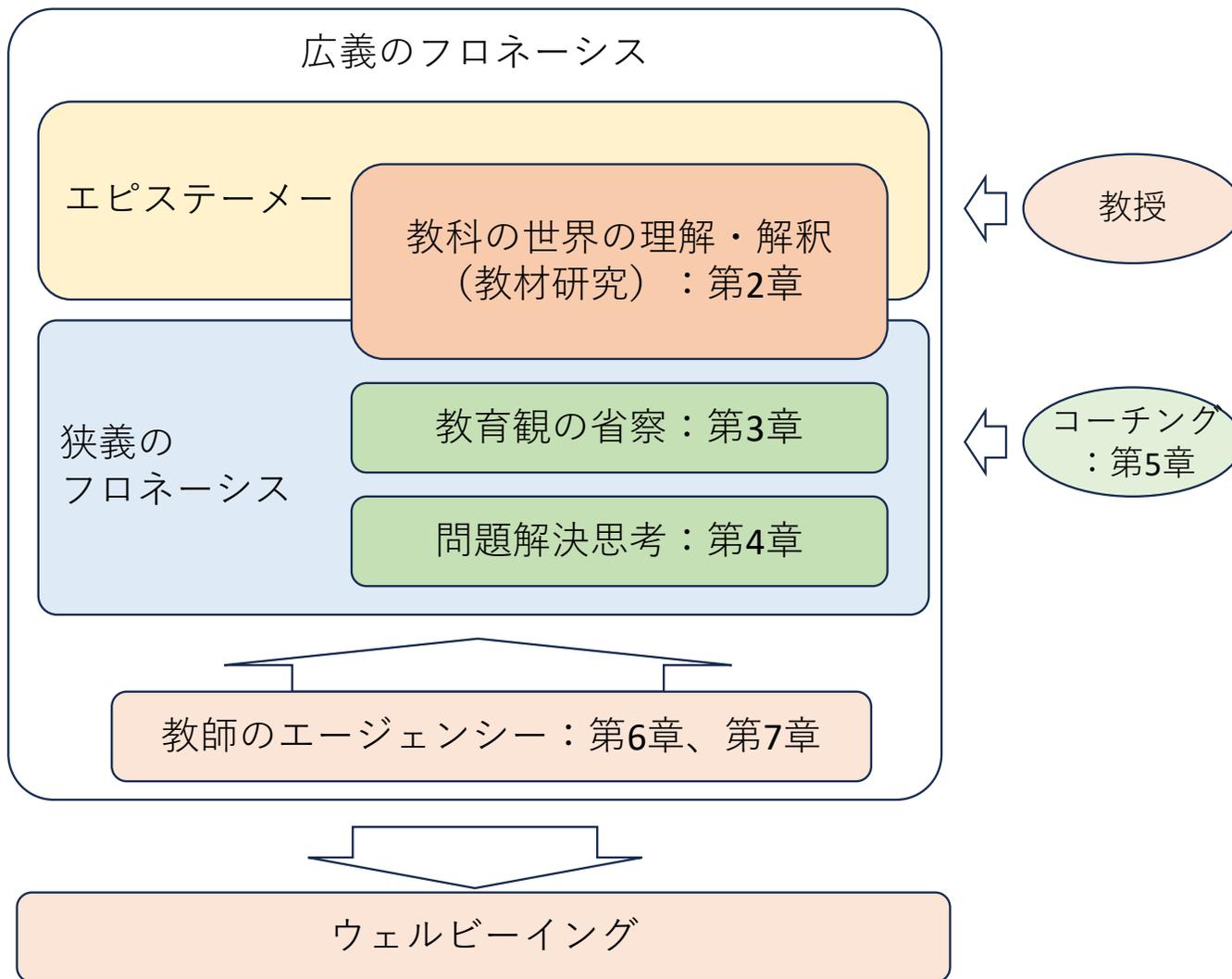
動かすことのできる主体性の世界

フロネーシス：よりよく生きるために思索すること

テクネー：エピステーメーやフロネーシスを活用して物事を生成すること

学ぶべき知の世界





TEACHER'S PHRONESIS

千々布敏弥
国立教育政策研究所総括研究官

先生たちのフロネーシス

リフレクションを超えた
授業改善の考え方

待望のリフレクション **第2弾** !!

技術的・批判的リフレクションの
謎を解く鍵は「フロネーシス」!

京都大学准教授 **石井英真氏 推薦!**

教材研究・指導技術重視か、子どもの学びの見取り重視か、トップダウンかボトムアップか。実践者や学校現場に関わる指導者・支援者が直面しがちなジレンマに対して、単純な二項対立に陥らずに、教師の「フロネーシス」を促進する道筋を探究する書。著者の長年にわたる学校や教育委員会との交流と自身の批判的リフレクションの集大成。

ウェルビーイング

授業に関するフロネーシス

省察

教育目的

エピステーメー
としての教材研究

授業構想

問題解決に関するフロネーシス

問題解決

教育目的

構造分析

教師のエージェンシー